

# 合理的意思決定力を育む社会科授業づくり

教育実践研究科 教職実践専攻 教職実践基礎領域  
大前昌士

## I はじめに

社会科では、知識を問う問題がテストに出題されることが多いため、暗記が学習の中心になりがちである。その結果、試験が終われば大半の知識・技能は忘れ去られ、社会生活に生きて働くものにはなりにくいという課題が指摘されている。こうした課題を克服するために、原田(2017)は「習得すべき知識・技能を生徒の既存の知識・経験と結び付けて考察させたり、習得した知識・技能を他の事例や社会生活に活用させたりする学習の充実を図る必要がある。」と指摘している。

中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（2016）では、社会科における現行学習指導要領の課題について、資料を基にして社会的事象の特色や意味について比較したり関連付けたり、多面的・多角的に考察したりして表現する力が不十分であることが指摘されている<sup>2)</sup>。その課題を踏まえ、これからの社会科では社会との関わりを意識して課題を追求したり解決したりする活動を充実し、知識や思考等を基盤として社会の在り方や人間としての生き方について選択・判断する力を育んでいくことが求められている。そのような力を育むためには、教師が一方向的に教え込むのではなく、生徒が個別に、あるいはペアやグループで対話的、協働的に思考・判断・表現する活動を通して習得することを重視していくことが必要であると考えられる。

## II 主題設定とその理由

### 1 今日的な教育課題

現在、世界は、政治や経済など、さまざまな分野で深刻な問題を抱えている。政治分野では、民族、宗教、領土に関する紛争やテロに対する不安が高まったり、また、経済分野では、成長を続ける国がある一方で不況にあえぐ国があったり、エネルギー危機や食糧危機が深刻化したりしている。そして、地球温暖化や生物多様性の危機など当事国間だけでは解決できない問題も拡大している。これらのような世界規模で進行している諸問題に対して、私たちはその解決策や社会の在り方を模索し、持続可能な社会を築いていかなければならない。

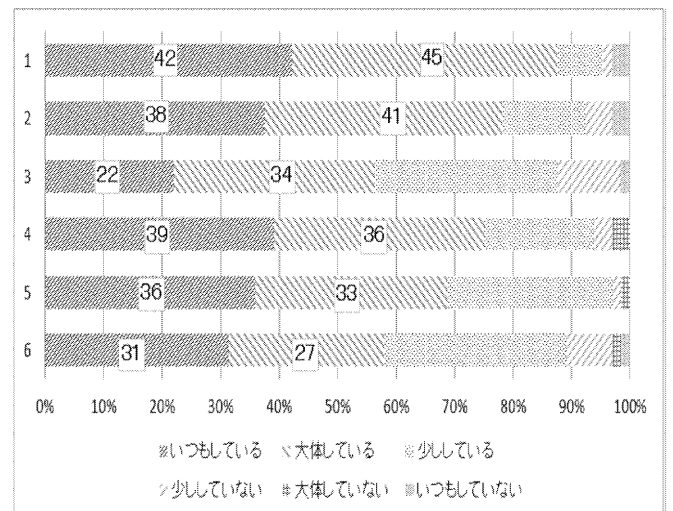
こうした課題に対して、社会科の授業が担うべき責務があると考えられる。特に身近な社会で起きた出来事をじぶんごととして捉え、どうしたらよいか授業で取り上げ、考えることが大切である。なぜなら、近い将来に、主権者となる子どもが、多面的・多角的に考察し、持続可能な社会の形成に向けて、公正な判断できるようにならなければいけないからである。そのために、より多くの人々が納得できるような解決策を提案することに加え、より望ましい社会の在り方を選択できるようにする必要がある。

### 2 連携協力校の実態

- (1) 調査対象：A 中学校 1 年 5・7 組
- (2) 調査日：平成 30 年 10 月 1 日
- (3) アンケートによる調査結果

質問項目(6 件法)	
1.	授業でグラフや資料が何を表しているのか読み取ることができますか
2.	自分の考えに理由を持つことをしていますか
3.	複数の理由から自分の考えをもつことをしていますか
4.	友だちや先生の話聞いて、自分の考えを深めることをしていますか
5.	友達や先生の話聞いて自分の考えを見直したり、付け加えたりしていますか
6.	授業で学んだことを生活で活かそうとしていますか

結果は以下のとおりである。(図 1)



【図 1 社会科に関するアンケート結果】

2と3の結果から、自分の考えをその理由とともにもっているという生徒は、「いつもしている」、「大体している」を合わせて約78%だが、理由が複数の理由となると、「いつもしている」、「だいたいしている」を合わせて約56%と約22ポイント下がることがわかった。

また、4と5の結果から、他者の意見を参考にしているという生徒は、「いつもしている」「大体している」を合わせて約75%である。また、他者の意見を取り入れながら考えを再構築するとなると、「いつもしている」「大体している」を合わせて約69%となった。この結果から、約7割の生徒は他者の考えを参考にしながら考えを深めることができることが分かった。

これらのことから、話し合い活動を通して、個人の考えを交流し吟味することで、自分の考えを深め、複数の理由から説得力のある考察ができる力を身に付けさせたい。また、約2割の生徒が他者の意見から考えを深めるということに対して意識が低い傾向にあるため、全員が意見を共有することで、考えを深めていけるようにしていきたい。

### 3 研究主題と目指す子ども像

今日的な教育課題を踏まえ、連携協力校の生徒たちの実態から、研究主題を「合理的意思決定力を育む社会科授業づくり」とし、具体的に目指す子ども像を以下のように設定した。

問題解決に向けて、問題解決に関わる様々な条件を見出し、それらを踏まえて、より望ましい改善策を決定することができる生徒

## III 研究の構想

### 1 研究の背景

私たちが生活している現代社会は、固有の生活様式をもった様々な集団が存在し、それらの集団に属する個人も固有の考え方に従って行動しているため、問題に対する答えや行動が異なり、そこに対立が生まれ、共に行動することができずに問題の悪化を招くことも多い。このように、世界のあらゆる面に存在する諸問題の解決策に対して持続可能性が問われ、物事に対する考え方が多様化している社会では、その一員として人種や民族、宗教などの枠にとらわれることなく、互いの考え方や境遇を尊重しつつ、その社会のもつ問題の解決に向けて将来を見据えた意思決定を形成することができる、すなわち、社会の一員として合理的意思決定を形成することができるようになることが必要だと考える。

持続可能な社会を実現するために阿部(2010)は以

下の2点が必要だと述べている<sup>3)</sup>。

- ① 諸問題を様々な視点から総合的に捉えて、目指していきたい持続可能な社会を描くこと
- ② 描いた持続可能な社会の実現に向けて実際に行動・協議していくこと

すなわち、持続可能な社会の実現には、諸問題を多面的・多角的に捉え、それを基に、一人ひとりが将来を見据えて問題に対する解決策を示し、他者と関わり合いながら互いに合意し、共に行動することが必要となる。また、私たちが住む日本は民主主義国家である。民主主義とは、国家や団体の権力者が構成員全員であり、意思決定を構成員の合意で行う体制である。そのため、私たちは構成員の一人として、意思決定を行う際に様々な情報を吟味したり省察したりして考え、公正な判断をしていく責任がある。

### 2 学習指導要領の目指す社会科授業

新学習指導要領では、中学校社会科の目標を次のように示している<sup>4)</sup>。

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

つまり、社会科では、公正な判断をするために、社会科の見方・考え方を働かせ、多面的・多角的に資料を読み取ることで根拠のある自分の考えを持ち、集団で考えを共有し省察し、より望ましい選択・判断ができるようにする必要がある。そのための方策として、「社会参画を志向する社会科授業」は、上記の趣旨と合致していると考えられる。

### 3 合理的意思決定とは

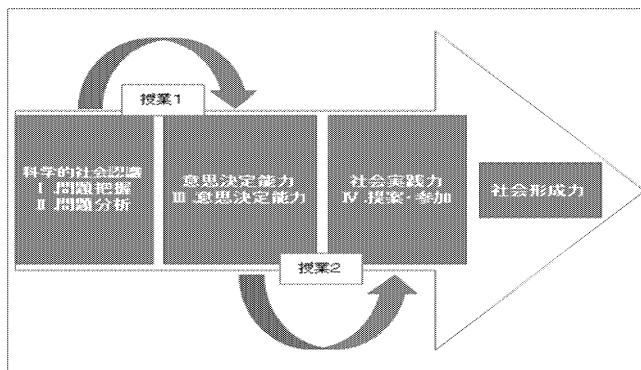
社会科を学ぶにあたって、近い将来には主権者となる子どもが、多面的・多角的に考察し、持続可能な社会の形成に向けて、公正に判断することで望ましい社会の在り方を選択するために、「合理的意思決定」する能力を育む必要があると考える。合理的意思決定力について、小原(1994)は次のように述べている<sup>5)</sup>。

合理的意思決定力とは問題場面での自己の行為を科学的な事実認識と反省的に吟味された価値判断に基づいて選択・決定するために必要な能力であり、目的・目標を達成するために考えられる実行可能なすべての行動案(手段、方法)、あるいは問題を解決するために考えられる解決策の中から、より望ましいと判断できるものを選択・決定する能力

#### 4 合理的意決定するための授業モデル

「社会参画を志向する社会科授業」を行うために西村(2003)は次のように述べている。「自立した個人(市民)と主権者としての国民を育成するために、社会系教科授業を従来の受動型から発信型に切り替え、自己の学びの成果について他者を意識して発信できる討論能力を『社会形成力』として重視したい」<sup>6)</sup>このように、小中高一貫公民形成カリキュラム開発の目標原理に、「社会形成力」を位置づけることを提案している。

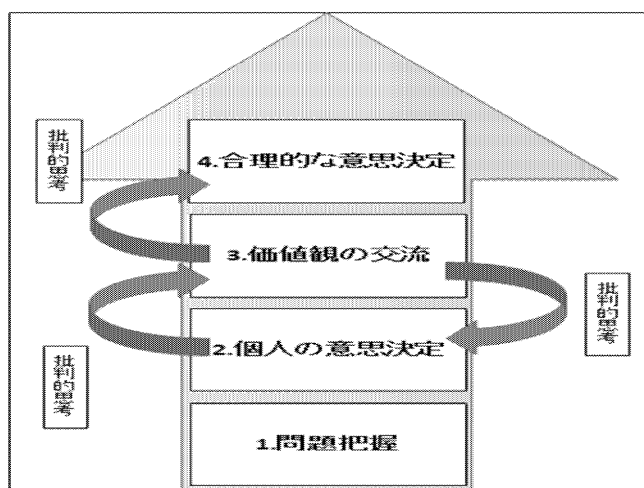
唐木(2006)は社会参画に基づく社会科授業の目標を「社会科形成力」に置き、社会形成力を「科学的な社会認識」「意思決定力」「社会的実践力」の三つの能力に分類し、段階的に各能力を育てていくことが必要であるとして、図2のようなモデルを示している<sup>7)</sup>。



【図2】唐木作成による社会形成力育成授業モデル

社会参画を目指した社会科授業をするためには、まず、問題を把握し、何が問題なのか分析することが必要である。その上で、どうすべきなのか意思決定し、提案したり参加したりするという一連のプロセスを体験させることが問題解決に向けて合理的に考える機会を設ける必要がある。

そこで本研究では、唐木による社会形成力育成授業モデルを参考に合理的意決定力を育む授業プロセスを作成し研究を進めることにした。(図3)



【図3】合理的意決定を促す授業モデル

このような過程で学習を進める上で、個人の考えを他者と交流し、自分の考えを深める必要があると考える。また、その際、論理的で偏りのない思考(「批判的思考」=クリティカルシンキング)ができるよう場面を繰り返し設定することで、多くの視点から考えをもつことができると考える。

#### 4 仮説と手立て

##### (1) 仮説

中学校の社会科授業において、「合理的意決定」を促す授業モデルを通して、課題の焦点化を図る工夫や他者と議論する場の設定をすることで、複数の選択肢の中から、より望ましい改善策を決定することができる姿が見られるだろう。

##### (2) 手立て

##### ①問いを生む課題設定

社会科の授業の中で生徒に多面的・多角的に考察したり判断したりする場をつくるためには、「じぶんごと」として考えさせる必要がある。寺本ら(2015)は『「じぶんごと」へと深めるためには『強い問い』や社会的ジレンマ(矛盾感)、体験知による共感の布石、将来自分との関与を明確に意識化させていく指導が必要になってくる』と述べている<sup>8)</sup>。本研究では、「じぶんごと」として考えさせるために、以上4つを意識した課題提示を行う。

##### ②資料提示の工夫

教科書や資料集には、写真、グラフ、絵といった多くの資料が掲載されている。それらの資料の提示の仕方を工夫することで生徒自身の「強い問い」が生まれ、問いに対して生徒自身が「じぶんごと」として考えられるようにする。

##### ③他者と交流し自分の考えを深める場の設定

自ら考える場を設定し、考えに複数の根拠をもたせる。その後、他者と意見を交流するにあたって、自らの考えと他者の考えを吟味する場を設け、考えを深めさせたい。そして、新たな意見を共有する場で公正性を高めるようにする。

##### ④メリットとデメリットの焦点化

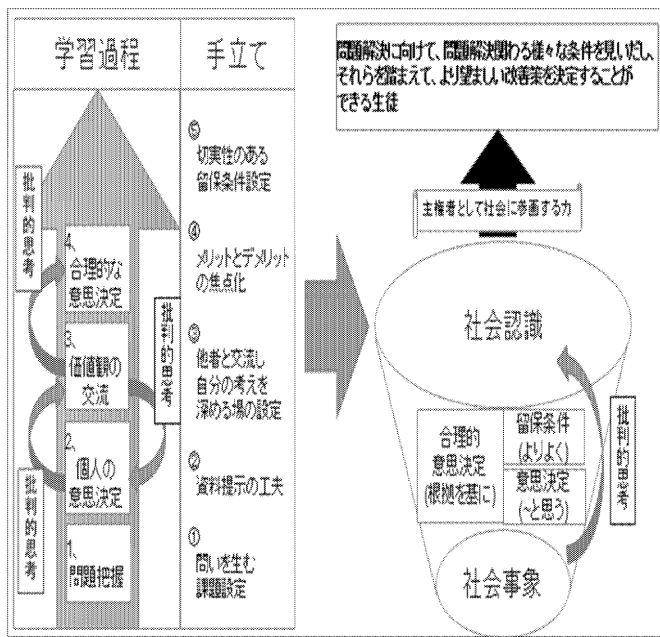
資料を基に何にどのような良さがあるのか。また、どのような課題を抱えているのか明確に理解させる必要がある。そのために、ワークシートを活用し、「メリット」「デメリット」という分かりやすい判断の拠りどころとして焦点化し、考えやすくする。

⑤切実性のある合理的意思決定場面の設定

考えをよりよくするために、自分ならどうするべきかを考えさせる。条件を設定し、可能なプランの中で、どれがより望ましい選択なのか吟味する必要がある。そこで、討論型の話し合いの場を設定し、意見を述べたり、質問したりすることで考えを深め、意思決定できるようにする。

5 研究構想図

これらのことから、以下のように研究構想図としてまとめた。(図4)



【図4】研究構想図

6 検証方法

(1) アンケート

授業実践前後で6項目のアンケートを行う。内容は、調査結果に使用したものと同一ものとし、その結果から検証する。

(2) 記述からの考察

手立てが生徒にどのような影響を与えたのか、授業での振り返りやまとめ等の記述から検証する。

IV 研究の実際

1 研究学年と期間

対象学年：中学校第1学年 64名  
 対象期間：教師力向上実習Ⅱ  
 2018年10月1日～10月26日

2 単元計画 「世界の諸地域 ヨーロッパ州」

本単元での、ヨーロッパ州の学習においては、EUに焦点を当てた学習を展開することで、国家間の結びつきに関わる経緯や持続可能な社会を実現するた

めに、地球環境問題や資源・エネルギー問題、人口・食料問題、居住・都市問題をどのように解決しようと試みているのか学ぶことができると考えたからである。そこで「どうしてヨーロッパの国々はEUにまとまったのだろうか」という単元の問いが生まれるようにEUに焦点を当てた学習単元を構成した。

問題把握の場面では、ヨーロッパに移民や難民がどうして集まるのかということの切り口に学習した内容をまとめたい。そして、個人の意思決定の場面や合理的な意思決定の場面では、授業の振り返りを発展させ、立場を明確に示した「本時の意思決定」を行わせたい。これらのことを行うことで、「国同士の統合による人々の生活の変化」を軸にヨーロッパで暮らす人々の生活を捉えさせたい。そのモデルとしてEUを構成する国の相互関係や域内の地域格差を取り上げる。その上で、ヨーロッパの国家間の統合が進められてきた理由や統合が可能になった理由について学習したい。そこで、イギリスのEU離脱問題について取り上げ、イギリス国民の立場に立って合理的なプランを決定する話し合い活動を行うことで、社会参画に必要な能力を育てていきたい。理由を明確にした意思決定を行う学習を通して、イギリスのEU離脱問題を移民問題や経済格差など、多面的に捉えて考えられる生徒を育てたい。

段階	学習内容
問題把握	移民・難民がヨーロッパに向かう写真の提示 どうしてヨーロッパの国々はEUにまとまったのだろうか <前1時>ヨーロッパの自然環境、人口民族、産業の特色 ・気候を生かした農業 ・100%をこえる農業自給率 【手立て①】問いをまわす授業設定 <前2時>ヨーロッパの文化の共通性 アリアンロケットに搭載されている国旗 【手立て①】 【手立て②】資料提示の工夫 ・国境をこえて高い技術力での工業生産 ・ヨーロッパの言語はほとんど同じ言語 高い農業自給率 → 豊富な食料 国境をこえる工業 → 技術力の成長 ヨーロッパの統合
個人の意思決定	<前3時>EUに統合して良かったか/悪かったか 加盟国：28か国 目的：平和と経済力 メリット：EU内で貿易がかららない 国境をこえて移動や仕事ができるetc デメリット：加盟国間の経済格差が大きいetc 【手立て③】他者と交流し自分の考えを深める場の設定 【手立て④】メリットデメリットの焦点化
価値観の交流	<前4時>イギリスのEU離脱について賛成？反対？ EUに加盟する利点やEUに加盟することで自由で自由に教育を決められなくなることや右図の資料を参考にした根拠をもとに個人の考えをもつ →全体交流し、再検討 【手立て⑤】 【手立て⑥】
合理的な意思決定	<前5時>イギリス国民ならEUを離脱？保留？ 英国民投票 【手立て⑦】 【手立て⑧】 切実性のある合理的な意思決定場面の設定 ー社会問題を深める討論による話し合い ーイギリスの離脱が激甚な現在、イギリスはどうするべきか考える

【図5】単元計画と手立て

### 3 抽出生 A について

事前に行ったアンケートでは、次のように回答した。

【表1】 抽出生 A アンケートの回答

1. 授業でグラフや資料が何を表しているのか読み取ることができますか	大体できる
2. 自分の考えに理由を持つことをしていますか	大体している
3. 複数の理由から自分の考えをもつことをしていますか	少ししている
4. 友だちや先生の話聞いて、自分の考えを深めることをしていますか	いつもしている
5. 友達や先生の話聞いて自分の考えを見直したり、付け加えたりしていますか	大体している
6. 授業で学んだことを生活で活かそうとしていますか	大体している

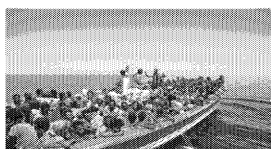
抽出生 A は、普段の授業から、資料を読み取り、自分の考えを文章にまとめることができている。自分の考えに理由をもつことができるが、複数の理由から自分の考えを形成することが課題である。自分の考えをもつ際、複数の理由から考えを形成し、判断ができる生徒になって欲しい。

### 4 授業の実際と考察

#### 第1時 ヨーロッパの自然環境、人口、民族、産業の特色

##### 【手立て①】 問いを生む課題設定

単元の始めに右のような写真を提示し、海で転覆することもあるのに、なぜ船に乗り込むのか問い、単元を通して、ヨーロッパには人がなぜ集まるのか、何が魅力なのかという疑問を抱きながら学習を進めた。

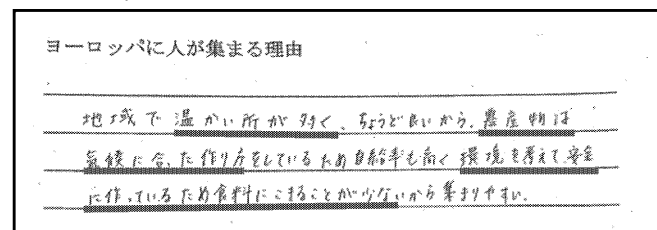


上記の写真を提示をした際、「なぜヨーロッパに向かっているのか」という生徒が感じた疑問をもとに授業を進めた。

ヨーロッパの魅力について考えるため、ヨーロッパの自然環境についての学習から始めた。その後、ヨーロッパは高緯度のわりに、暖流やと偏西風の影響から寒さが和らいでいること、フランスなど主なる国の農産物自給率を日本と比較する学習を行った。各国と日本の違いは、「穀物」「果実類」「牛乳・乳製品」のどれかひとつの中で農産自給率が 100% を超えているものがことだった。農産自給率が 100% を超えていると、どのような良いことがあるのか。また、どうして 100% を超えることができた

のか EU の共通農業政策の資料を提示し、調べる時間を確保し考えさせた。その結果、生徒は農産自給率が 100% を超えることで輸出する量が確保することに気付き、気候に合った農業をしていることやヨーロッパの特定の地域で安全な食料を供給できる競争力のある農業生産をしていることを学んだ。

抽出生 A は、授業の振り返りとして、次のように記述した。(資料1)



【資料1】 1時間目の生徒 A の記述

生徒の記述から、ヨーロッパに人が集まる要因は、「温かい気候」「気候に合った農業」「環境を考えた安全な食料の生産」だとまとめている。また、授業で農産物自給率の資料や EU の共通農業政策の資料を提示したことで、複数の理由からまとめの記述ができている。

また、他の生徒の授業の振り返りの記述では、貧しい人が住むためには何が必要なのかという視点からもまとめられている。さらに、気候に合った農業をすることで、十分に食料が確保することができることと気付き、自国で消費する量を超えたものは輸出し儲けることができることから、貧しい人も暮らせる要因になっているのではないかと記述が多く見られた。

これらは、移民や難民がなぜ屋根のない船に人が隙間なく乗船し、船は転覆することもあるのにヨーロッパを目指して移動するのかと発問したことで、なぜヨーロッパに集まるのかという課題設定が生まれ、ヨーロッパの良さに着目し、授業の振り返りができたからと考える。

#### 第2時 ヨーロッパの文化の共通性

##### 【手立て②】 資料提示の工夫

アリアンロケットに描かれている国旗に注目し、国境をこえて工業をしていることに注目させた。

##### 【手立て①】 問いを生む課題設定

なぜ国境をこえて工業ができているのかという疑問から課題設定しヨーロッパの文化の共通性について学んだ。

授業では、ヨーロッパの 22 か国の企業が製造に参加し、ヨーロッパ最高技術を結集させ、アリアンロケットを打ち上げている資料を提示した。次に、

アリアンロケットに描かれている国が協力するメリットは何か考えることにした。すると、生徒の中から「それぞれの国の技術を合わせれば、もっと良いものが出来る」という発言があった。この発言をきっかけに、資料を参考にそれが正しいのか考える時間を設けることで、国境をこえて高い技術力で生産することは工業付加価値額も高くなるということにも気付いた。そこで、メリットがあるとはいえ、多くの国がなぜ協力できているのかについての疑問から、ヨーロッパの文化の共通性について学習を進めた。まず、多様なヨーロッパがなぜ統合を進められたのか調べ学習を行った。多様な民族が暮らすヨーロッパは、もともとは一つの言語から分かれた言語を使用し、近年は移民・難民によってイスラム教を信仰する人々も増えてきたが、キリスト教を信仰する人々がおおかた占めており、民族に違いはあるが、共通の文化も見られるため統合が進んだということを学習した。学習をもとにヨーロッパに人が集まる理由を抽出しAは、次のように記述した。(資料2)

ヨーロッパに人が集まる理由②  
 ヨーロッパは言語が似ている、宗教などの共通点があるため、統合できている。

【資料2】 2時間目の生徒Aの記述

抽出生Aは、授業の振り返りに、言語と宗教の共通点に着目した記述をしている。

また、他の生徒の記述では、「国境をこえて統合することで高い技術力で工業品を生産することができるようになったため、労働力が必要となり、働く場が多いため人が集まる」というものもあった。

これらのことから、なぜ「国境をこえて工業ができているのか」という課題をもとに学習を進めたことで、抽出生Aは、ヨーロッパは多様な民族が住んでおり、もともとは同じ言語で、多くの人が同じ宗教を信仰しているため協力し統合がしやすいため、移民を受け入れられやすく、人が集まると考えることができ、統合を進められた要因についてまとめることができた。しかし、統合が進められたことでどのような影響が働いたかについては、まとめられなかった。つまり、資料提示の工夫はしたもの、他の生徒のように、アリアンロケットに描かれた国旗に注目し、国境をこえて高い技術力で生産することができ、生産にあたり労働者が増えることに気付き、働く場所を求めてヨーロッパに人が集まるという考えをもつことができなかった。

課題としては、授業において、統合が進められた要因と統合を進めたことでどのような影響があり、ヨーロッパに人が集まるようになったのかについて考える時間を確保すること、賃金が安くすむ労働力を

確保することを示す資料の提示が必要という点が挙げられる。

第3時 EUに統合してよかった or よくなかった

【手立て③】他者と交流し自分の考えを深める場の設定  
 EUが統合を進めてよかったのかということについて、個人の考えをもたせ、根拠のある理由を話し合い、交流することで考えを深める場を設定した。  
 【手立て④】メリットとデメリットの焦点化  
 EUが統合を進めたことで生じた利点と問題点について資料をもとに話し合いを設定した。

授業では、「人口」「面積」「GDP」についての「EU、アメリカ、日本の比較」の資料から、ヨーロッパの国々は面積や人口の規模が小さく、一国ではアメリカなどの大国との競争に勝てないことや二度とヨーロッパで戦争を起こさないために統合が進められたことを学んだ。その上で、ヨーロッパが統合して起こった影響についてまとめた資料を配付し、統合をして良かったのか考えさせた。以下のように記述した。(資料3)

ヨーロッパは統合して良かったですか？選択肢に○を付け、理由も書きましょう。  
 良かった ○ ・ 良くなかった  
 理由・・・争いをしないようにして、人口はアメリカより少ないが、かぜぐ量が増えているから。

【資料3】 3時間目の生徒Aの記述

抽出生Aは、ヨーロッパ統合の賛否について、「二度とヨーロッパで戦争を起こさないため」「統合し大国に対抗するため」と肯定的にまとめている。

統合を進めた理由に肯定的な意見が多かったため、EUの利点と問題点をまとめた資料を参考に、統合をしたことでどのようなメリットやデメリットがあるのか表に以下のようにまとめさせた。(資料4)

良かった	良くなかった(課題)
・ヨーロッパ連合(EU)を発展させた。 ・EUは世界の経済に大きな影響を与えている。 ・ほとんどの国でパスポートがいらなくて、ユーロの導入で外国の物が買える。 ・航空路線や国内線に乗り換える感覚で外国へ移動できる。 ・他の国で仕事ができる。	・移民の増加に学校や住居が争いがおこれる。 ・国民総所得に差(GNI) 経済格差 ・政治面で、加盟国が増えたら意見の調整に時間がかかる。 ・競争政策が自分で決められない。

【資料4】 3時間目の生徒Aの記述

その後、まとめた表をもとに統合に対して「良かった」「良くなかった」を、グループでそれぞれ理由を述べながら交流した。交流する上で、どうして「良かった」なのか、また、どうして「良くなかつ

た」のか、理由を述べながら共有した。その後、メリットとデメリットを焦点化させた上で、再度、EUは統合を進めて良かったのかまとめた。（資料5）

EUは統合を進めて良かったのかまとめよう。  
EUは、経済に大きな影響を与えたり、国民の間でも  
人々に、仕事や、移動などもできるよになつてきた。でも  
格差や、政治的な課題に悩むの不安が、あつたとい  
います。

【資料5】 3時間目の生徒Aの記述

抽出生Aは、資料3の記述では、肯定的な意見だけだったのに対して、資料5の記述では、「EUに統合することで経済的に豊かになる」「EU内で自由に仕事や移動ができる」といった肯定的意見だけでなく、「統合したことで経済格差も生まれていて不安」といった否定的な意見も記述されている。

これらは、「EUは統合を進めて良かったのか」と発問し、メリットとデメリットを確認したことで、それぞれの内容を把握することにつながり、どのようなことがメリットなのか具体的に記述できたからと考える。また、メリットとデメリットを整理したことで、どちらかの視点だけで結論を出すのではなく、統合を進めて何が良くなり、どのような課題があるのかを授業の振り返りで記述できたのではないかと考える。しかし、課題として、授業の振り返りで、EUは統合を進めて良かったのかについて、「どちらともいえない」という立場を加えて選択させ根拠をより明確にさせる必要があった。

#### 第4時 イギリスのEU離脱について賛成？反対？

【手立て②】資料提示の工夫

特定の資料を指定し、「EUの利点」「EU加盟国の貿易相手国」「EU予算への準拠出額」を考慮して考察した。

【手立て③】他者と交流し自分の考えを深める場の設定

資料を読み取った上でどのように思うのか交流させることで他者はどのような視点で価値判断しているのか共有した。

授業では、統合を進めてきたEUの中に離脱を求めた国があることを紹介し、その中でイギリスに焦点を当て、イギリスのEU離脱に対して賛成か、反対なのか授業で賛成か反対かを中心的な課題をした。

まず、イギリスがEUに持っていた不満について資料をもとにして記述した。（資料6）

資料6で記述したEUの不満を解消するためには離脱する必要がある。しかし、イギリスがEUを離脱することで、どのようなことが起こるのか考えさせ、イギリスがEUを離脱することに賛成か反対か

考えさせた。（資料7）

イギリスがEUに持っていた不満はなにか。  
・移民の増加、仕事や奪われ、学校・住居が不足するおそれ  
・農業や環境などの重要な政策が自由に自由に決められない。

【資料6】 4時間目の生徒Aの記述

イギリスがEUを離脱するとどうなると思いますか？  
自由にこの国にも行けなくなり、輸出入に関税が  
かかるようになりしてお金が少なくなるからよくない。  
経済格差も大きくなるかもしれないから  
私は、イギリスがEUを離脱しようとするに(賛成・どちらでもない・反対)

【資料7】 4時間目の生徒Aの記述

調べ学習をした上で個人の考えを持たせ、価値観の交流を行った。生徒Aは、イギリスがEUを離脱することに対して反対だが、全体で意見交流の後、資料8では、賛成に代わっている。

イギリスがEUを離脱しようとするに賛成？反対？  
賛成・反対  
EUを離脱するとお金の不足になり経済格差も大き  
くなるかもしれないから、イギリスにとって、仕事やなくなり、  
重要な政策が決められない不満もいるから。

【資料8】 4時間目の生徒Aの記述

抽出生Aは、資料7で「イギリスはEUを離脱すること」に反対だったが、資料8では賛成に意見が変わっている。このように考えを深めたのは、他者と交流し、自分の考えと他者の意見を吟味し、イギリスがEUに持っていた不満を考慮したことで、イギリスはEUを離脱するべきと考えを深めることができたと考えられる。

#### 第5時 イギリス国民ならEUを離脱？残留？

【手立て①】問いを生む課題設定

自分がイギリス国民なら「離脱」「残留」どちらを選択するのかという場面設定をし、自分の立場を決め、考えに根拠を持たせた。

【手立て⑤】切実性のある合理的意思決定場面の設定

立場を二者択一にすることで、どちらがよりよい選択なのか。可能なかぎりの選択肢の中から判断させることで合理的な意思決定を図った。

授業では、自分がイギリス国民の立場に立ったら、どのような判断をするのか自分の立場を決め、なぜそのように考えたのか理由を記述させた。（資料9）

抽出生Aは、イギリス国民の立場なら、EUを離脱することでEUに所属するメリットはなくなってしまうが、移民や難民によって仕事が奪われ、学校

や住居が不足する恐れを考慮し、離脱した方が良いと記述している。資料8と比較すると、イギリス国民の立場で考えたことで、国民にとって嫌なことだからという記述が付け加えられている。

自分がイギリス国民ならEUを「離脱」「残留」どちらを選びますか？

離脱

EUを離脱すれば国外の物々などでパスポートがいろいろと大変な所もあるけど、仕事や学校がなくなる、住居が国によって確保できなくて、離脱の方がいいと思う。

【資料9】 5時間目の生徒Aの記述

この考えを基に、自分はどちらの立場なのか意思表示をさせた。意思表示を指せた後に、それぞれの立場の根拠を相手に伝えたり、自分とは異なる意見に質問をしたりして、考えを深めた。交流の際、他者の意見をメモした記述が次の資料である。(資料10)

<p>仲間の意見をメモしてこう！</p> <p><u>離脱</u></p> <p>生活 不便がなくなる 重要行政サービス 受けられる EUに属している国々が 少ない →農業や工業は 自分の国に 有利</p> <p>移民 物産の確保 仕事や学校がなくなる 住居の確保が 難しい</p>	<p><u>残留</u></p> <p>生活 楽 仕事 生活が楽 EUに属している国々が 多い →農業や工業は 自分の国に 有利</p>
---	--

【資料10】 5時間目の生徒Aの記述

話し合いでは、それぞれの立場で意見を述べた際、離脱や残留するとどのようなメリットがあるのかという意見だけではなく、離脱や残留するとどのようなデメリットがあるのかということを確認できた。例えば、残留を主張する意見で、離脱をすることでEU内での貿易で関税がかかるようになると、商品が売れにくくなり、EU加盟国から輸入したものの商品が高くなるのではないかといった意見が述べられた。また、離脱を主張する意見で、EUの経済格差を解消するために巨額の予算を投じるよりも自国の政策に予算を使った方が良いという意見が述べられた。それぞれ立場を示しながら意見を交流し、話し合いを踏まえて自分がイギリス国民なら国民投票でどちらを選ぶのか選択させた(資料11)

自分がイギリス国民ならEUを「離脱」「残留」どちらを選びますか？

離脱

仕事や学校がなくなるのがいいことだし、EUに属している国々が少ない農業や工業などは自分の国で使えたりするから。

【資料11】 5時間目の生徒Aの記述

生徒Aは、資料9では生徒Aは、イギリス国民の立場なら、EUを離脱することでEUに所属するメリットはなくなってしまうが、移民や難民によって仕事が奪われ、学校や住居が不足する恐れを考慮し、国民の立場に立ったら離脱した方が良いと記述している。資料11では、離脱したらEU予算への準拠出額を自国の政策に回すことができるため、離脱を選択している。話し合いによって、離脱をするとEUと貿易をする際、関税がかけられるため貿易では不利になることよりもEUへ負担している予算を使った方が国の発展につながると考えている。

これらのことから、立場を二者択一に限定し、どちらがよりよい選択なのか話し合いをしたことで、他者の意見をと自分の考えを吟味し、意思決定することができたと考える。また、課題設定の際、イギリス国民ならばどうなのか、立場を限定したことで、自分の意見を構成した理由よりも多くの意見に触れたり、人によって価値観が違うということを感じたりしながら話し合いをしたことで、二つの選択肢の中からより望ましい選択はどちらなのか合理的意思決定することができたと考える。

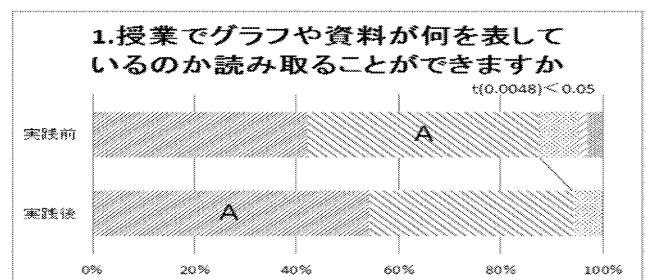
## V 研究のまとめ

### 1 仮説の検証

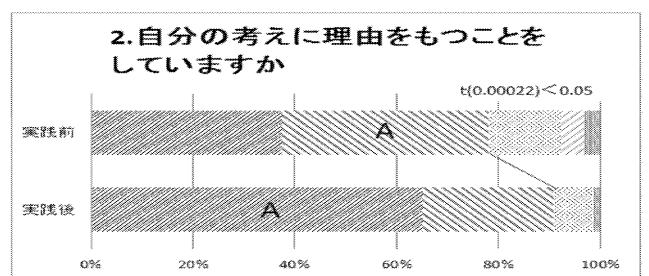
#### (1) アンケート結果からの考察

それぞれのアンケート結果を項目ごとに実践前と実践後で比較したのが下記の資料である。なお、実践前後の平均値の差が統計的に有意であるか確かめるため、有意水準5%、両側検定のt検定を行った結果についても記載してある。結果は以下のとおりである。※グラフ中に抽出生Aの結果も記載してある。

■いつもしている ■だいたいしている ■すこししている  
■すこししていない ■だいたいしていない ■いつもできない



【図6】



【図7】



【表2】 実践前後の平均値の比較

	1	2	3	4	5	6
実践前	5.2	5	4.6	5	5	4.7
実践後	5.5	5.5	5.3	5.3	5.4	4.9

アンケートの結果から、どの項目でも「いつもしている」「大体している」を合わせた数値は、実践前に比べて上昇している。平均値の比較を見てもどの項目も上昇している。なかでも、実践前と実践後を比べて特に変化が見られた項目3「複数の理由から自分の考えをもつことをしていますか」(図8)である。実践前が約64%だったのに対して、実践後は約87%と23ポイント上昇している。平均値からも4.6から5.3に0.7ポイント上昇している。このことから、生徒は自分の考えをもつ際、複数の理由から自分の考えをもてるように意識していることがわかる。また、項目5「友達や先生の話聞いて自分の考えを見直したり、付け加えたりしていますか」

(図10)については、実践前が約68%だったのに対して、実践後は約85%と17ポイント上昇している。平均値からも5から5.4に0.4ポイント上昇している。このことから、他者の意見を聞きながら自分の考えを深めていたことがわかる。つまり、問題解決に向けて、より望ましい改善策を決定するために、他者の意見を踏まえた複数の理由を吟味し、自分の考えを形成していると考えられる。

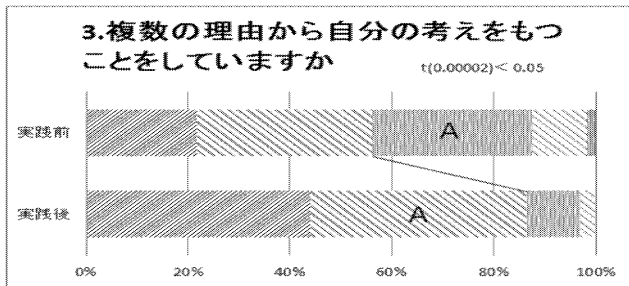
(2) 記述からの考察

第5時の最後に模擬国民投票と称して、イギリスのEU離脱について、今後イギリスはどうしたらいいのか合理的意思決定をする場面を設定し、もしイギリス国民だとしたらどうすべきか、授業の中で合理的意思決定を目指した。模擬国民投票をする際、話し合いを通して、考えの根拠になるものの中でより説得力のあるものを選択し、合理的な意思決定をした。実際に、イギリスが国民投票でEUを離脱することを選択したことを確認し、今後イギリスはどうしたらいいのか考えた。(資料12)

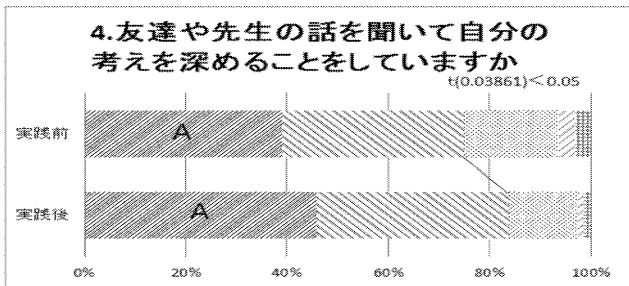
今後イギリスはどうしたらいいだろう。  
関税がかかるようになってしまふけど、EUには残っていたお金を農業などに使い、食や物などを自分たちで作っていく。

【資料12】 5時間目の生徒Aの記述

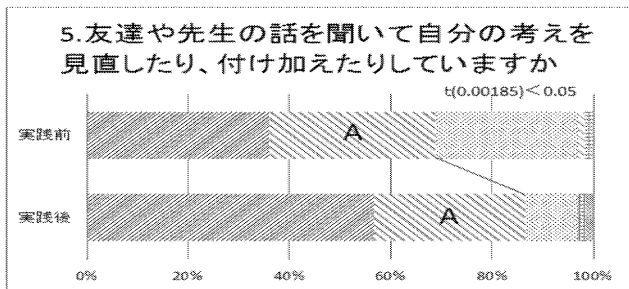
生徒Aは、今後、離脱したらEUと貿易する際、関税がかかり、貿易では不利になるが、EU予算への準拠出額を自国の政策に回し、農業を発展させていくべきだと記述している。単元の中で合理的意思決定し、他者と議論する場を設け、問題解決に向けて、より望ましい選択を考えたことで、今後イギリスはどういった選択したらより望ましいと思うのか考えることができた。



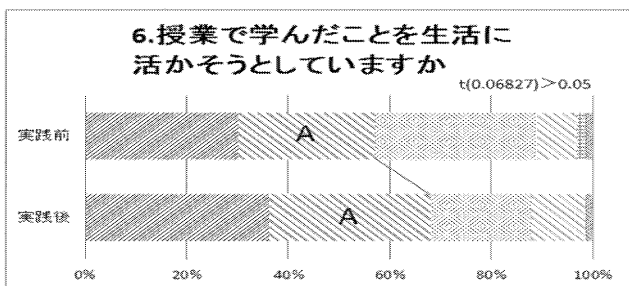
【図8】



【図9】

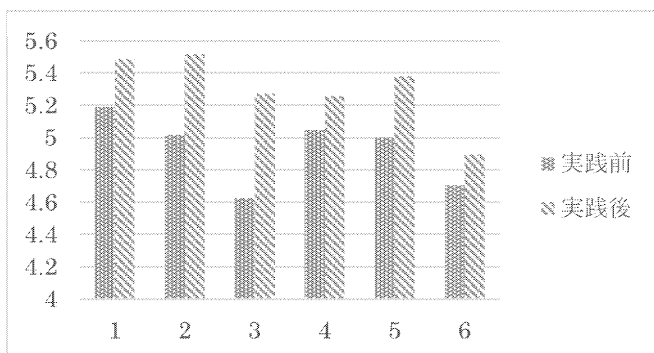


【図10】



【図11】

また、「いつもしている」という回答を6ポイント、「大体している」という回答を5ポイント(以下略)とし、6件法を用いて平均値を出し、実践前と実践後の比較を行った。結果は以下の通りである。



【図12】 実践前後の平均値の比較

このことから、切実性のある合理的意思決定場面の設定を中心に、問いを生む課題設定や、資料提示の工夫、他者と交流し自分の考えを深める場の設定、メリットとデメリットの焦点化をしたことで自分の考えを深めることができたのが良かったと考える。

## 2 研究の成果

社会で起こった問題に対して、「自分の考えをもつことをしている」という肯定的な意見が多くなったことは成果である。実践のはじめでは、文章で振り返りをするを苦手とした生徒が見られたが、授業を展開し、他者と交流し自分の考えを深める場の設定をしたことで、自分の考えを複数の理由から形成できるようになっていった。これは社会の問題に対して何がメリットで何がデメリットなのか把握し、両方を見て判断することでより望ましい選択は何なのか考えられているからである。問題を解決していくためには、何が良くて、何が良くないのか判断し選択するのではなく、実行可能なすべての行動案（手段、方法）、あるいは問題を解決するために考えられる解決策の中から吟味し、どのような立場の人でも望ましいと思える改善案を考えることが大切である。

本実践では、EU離脱についてイギリスはどのような理由からどのような選択をしたのか考え、議論することで、イギリス国民の立場になって考えられた。また、今後のイギリスはどのようにしていくべきか考えられたことは、多面的・多角的に考察し、持続可能な社会の形成に向けて、公正に判断することで望ましい社会の在り方を考えられる姿に近づきつつあるといえる。

## 3 研究の課題

社会の問題に対して、他者の意見も参考にしながら、根拠をもとにどのようにしたら良いのか考えられるようにはなってきたが、どのように改善したらよいのかという考えをもつ生徒は少なかった。原因として、手立てが問題把握や問題分析をする部分が多かったことが考えられる。社会の問題を身近に感じさせ、自ら問題を解決する単元設定が必要だったように感じる。アンケートからも「授業で学んだ内容を生活に活かそうとしている」の肯定的回答は実践前に比べ、実践後はやや減少していることがわかる。本単元はヨーロッパ州であり、模擬国民投票したとしても、生徒にとって自分事な問題にはつながらない。単元の最後に、ヨーロッパと日本が関連した問題解決をする授業をする必要があったように感じる。

## 4 今後の授業実践にむけて

本実践では、合理的意思決定をする際、様々な情報を吟味したり省察したりして考え、公正な判断をしていくことを意識した授業実践を行った。将来、主権者になる生徒が持続可能な視点を持ち、判断ができるように願ったが、単元を学ぶにあたって、単元がヨーロッパ州ということもあり、問題が身近に感じられるものではなかった。生徒が社会の問題について課題意識を感じ解決したいと思える単元計画をする必要がある。押し付けの授業ではなく、生徒の思考から授業が進行し、問題について追求し、どうしたら改善できるのか考えていけるような授業実践ができるようにしていきたいと考えた。

### [引用参考文献]

- 1)原田智仁(2017)『新学習指導要領の展開社会科編』、明治図書、p.8
- 2)中央教育審議会(2016)「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」
- 3)阿部治(2010)「今はなぜ『持続可能な社会』なのか」国立国会図書館調査及び立法考査局『持続可能な社会の構築総合調査報告書』
- 4)中学校学習指導要領社会科編(2017)
- 5)小原友行(1994)「社会科における意思決定」(社会認識教育学会編『社会科教育ハンドブック』)、明治図書
- 6)西村公彦(2003)「小中高一貫の公民形成カリキュラム開発一『社会形成力』の育成を目指して」、日本公民教育学会編『公民教育研究』(Vol.11)、p.8
- 7)唐木清志(2006)「社会科における社会参加学習の展開」、日本社会科教育学会『新時代を拓く社会科の挑戦』第一学習者、p.p.178-189
- 8)寺本潔・吉田和義(2015)『伝え合う力が育つ社会科授業』、教育出版

### 付記

教師力向上実習Ⅰ・Ⅱやサポーター活動において連携協力校であるA校の校長先生、指導教諭をはじめとする多くの先生方から温かいご指導、ご助言をいただきました。お世話になったすべての方々に厚く感謝申し上げます。

最後に教職大学院の学びや終了報告書の作成にあたっては、山田先生をはじめ多くの先生方にご指導いただきました。心よりお礼申し上げます。